「競争」概念に関する考察

矢　澤　信　雄

【要　　旨】

本稿の目的は「競争」という概念について考察し，この概念から設定可能な問題とは何かを明らかにすることである。まず，競争を分類することを試みた。次にマズローの提唱した５段階欲求と競争の間の関係を考察した。さらに，競争概念の関わる多岐にわたる領域において意義のある研究テーマの一部を概観した。最後に，競争関係の定量化可能性の検討を行なった。

今後は，「競争」をネットワーク理論により理論化することを検討している。

【キーワード】

競争　公正　戦争　依存性　相互性

Ⅰ．はじめに

本稿の目的は「競争」という概念について考察し，この概念から設定可能な問題とは何かを明らかにすることである。

近代経済学の出発点とみなされている『国富論』(Smith, 1776)においては，130回「競争(competition)」という単語が用いられている。近代経済学の理論では，その生誕時点においてすでに競争（競争原理）という概念が重要な役割を担っていたと考えられる。(1)

Ⅱ．競争という用語の用法について

競争という用語は日常，どの様な文脈で用いられているのだろうか。本章では「○○競争」という表現にどの様なものがあるのかを調べた。(2)

１．競争の性格を表す形容詞＋競争

アンバランスな競争，生き残り競争，過当競争，公正な競争，不公正な競争

２．何について競争しているのか，その対象＋競争

価格競争，軍拡競争，軍備競争，コスト競争，値下げ競争，販売競争，輸出競争，輸入競争，立地競争

３．競争が起こっている範囲＋競争

国際競争，国内競争，世界的競争，地域内競争，グローバル競争

上記リストからは，競争については貿易を含む経済に関わる用法が圧倒的に多いことがわかった。次に，生物学や軍事といった文脈での用法が見られた。また，競争の「公正さ」についても人々が注意を払っていることがわかった。

Ⅲ．競争の分類の試み

本章では，競争を分類することを試みる。

１．生態学における２種類の競争

まず，生態学では競争をコンテスト競争（contest competition）とスクランブル競争（scramble competition）の２つに分類している（Barash, 1982）。

コンテスト競争は，競合する個人が直接に交互作用し合い，そのような交互作用の結果生じる個体間の優劣により資源へのアクセス権を決定するときに発生する。コンテスト競争では，勝者に戦利品が所属することになる（Barash, 1982）。(3)

コンテスト競争を人間に適用すると，これは対人的性格の競争ということになる。よって，人間社会においてこの競争が惹起する問題としては戦争，殺人などがある。

一方，スクランブル競争は，各参加者が，競合他者と社会的相互作用無しに，可能な限り多くの重要なリソースを蓄積して利用しようとするときに発生する（Barash, 1982）。(4)

スクランブル競争を人間に適用すると，これは人との接触無しに直接資源に向き合い，資源を得ようとする性格の競争になる。この競争が人間社会において惹起する問題には，無際限な資源収奪により資源収奪速度が資源再生速度を上回り，その結果資源が枯渇してしまう問題が含まれる。この問題はコモンズの悲劇と類似している。

上記のコンテスト競争とスクランブル競争を人間に適用した競争の分類名を「対人的競争」と「対物的競争」と本項では呼ぶことにする。

２．マズローの５段階欲求説と競争

マズローの提唱した５段階の欲求に対応する競争は，いわば競争を５種類に分類しているとも解釈ができる。

マズローは人間の最も基本的な欲求として生理的欲求（Physiological needs）を挙げた。この欲求と競争の関係は生物が生存するために行う行動から発生する競争と同じ原理の関係とみて良い。従って，生態学におけるモデルで扱うことが可能である。

次の次元の欲求として安全の欲求（Safety needs）がある。前述の欲求同様，この欲求はほぼ純粋に生物個体としての欲求と見なすことができるので，この欲求と競争の関係は生物が生存するために行う行動から発生する競争と同じ原理の関係とみて良い。

第３段階の欲求である社会的欲求／所属と愛の欲求（Social needs / Love and belonging）は人間に固有の欲求と見ることができる。この欲求と競争は，Darwin が提唱した性淘汰（sexual selection）の理論と重なる部分がある。性淘汰は個体間の競争を基本原理とする理論である。

また，集団への所属の欲求はある集団へ入ることを希望する者が多い場合，入団のためのセレクションを実施しなければならず，不可避的に競争が発生することになる。

第４段階の欲求である承認（尊重）の欲求（Esteem）は高度に人間的な欲求と見ることができる。このレベルにおいては欲求が満たされているか否かを決めるのは極めて内面的な要素であることが多く，客観的要素をもとに欲求の充足度を判定することは不可能である。競争というのは外面的性格の強い概念であると言える。従って，このレベルの欲求と競争の明確な関係を見る

ことは困難である。

第５段階の欲求である自己実現の欲求（Self-actualization）は極めて高度な人間的欲求と見ることができる。高度の欲求になればなるほど内面的な魂の問題になってくる。従って，このレベルの欲求と本来外面的なものである競争の明確な関係を見ることは困難である。

３．競争の激烈さと競争の種類の関係

本章では競争の激しさと競争の種類の関係について分析を行なった。

（１）対人的・対物的競争と競争の強弱の関係

ここでは，前述の２種類の競争と競争の度合い（強弱）の２×２マトリックスを作成し４つの要素について考察を行なった。

	激しい競争	緩やかな競争
対人的	１A	１B
対物的	１C	１D

図表１　対人的・対物的競争と競争の強弱の関係
（出典　著者作成）

１A：対人的に激しい競争が発生している場合は人命が失われることがあり，戦争状態もこれに当てはまる。

１B：対人的に緩やかな競争が発生している場合，競争により各人が学習・成長する可能性が大きく，好ましいこともある。

１C：対物的に激しい競争が発生している場合，対象となっている物（資源）の枯渇が問題となる。

１D：対物的に緩やかな競争が発生している場合，競争者には心理的ゆとりがあることが想定できる。よって，競争者間で理性的な話し合いを行い，対象となっている物（資源）の枯渇を防ぐ方策や，公平な分配方法の検討などがなされる可能性が高い。

（２）依存性の強弱と競争の強弱の関係

ここでは，依存性の強弱と競争の度合い（強弱）の２×２マトリックスを作成し４つの要素について考察を行なった。

	激しい競争	緩やかな競争
強い依存性	２A	２B
弱い依存性	２C	２D

図表２　依存性の強弱と競争の強弱の関係
（出典　著者作成）

２A：強い依存関係にある人々の間に激しい競争が発生している場合，依存関係の存在が競争の帰結に関係する。すなわち依存されている者が競争優位に立ち，競争に勝つ。

２B：強い依存関係にある人々の間に緩やかな競争が発生している場合，依存関係の存在を競争において利用し，強く依存されている者が競争優位に立ち，競争に勝つ可能性が高い。ただし競争が緩やかであるということから強く依存されている者は，競争に勝つことを相手

に譲る可能性もある。このように，相手に貸しを作ることにより，本当に大切な資源をめぐる競争で競争優位に立つために利用できる交渉のカードを１枚増やすことになる。

２Ｃ：弱い依存関係にある人々の間に激しい競争が発生している場合は，依存関係は競争の帰結に影響をほとんど与えない。

２Ｄ：弱い依存関係にある人々の間に緩やかな競争が発生している場合は，依存関係は競争の帰結に影響をほとんど与えない。

（３）相互性の強弱と競争の強弱の関係

ここでは，相互性の強弱と競争の度合い（強弱）の２×２マトリックスを作成し４つの要素について考察を行なった。

	激しい競争	緩やかな競争
強い相互性	３Ａ	３Ｂ
弱い相互性	３Ｃ	３Ｄ

図表３　相互性の強弱と競争の強弱の関係

（出典　著者作成）

３Ａ：強い相互関係にある人々の間に激しい競争が発生している場合，競争の結果がどのようになっても，競争の後，相互関係は低下する可能性が高い。

３Ｂ：強い相互関係にある人々の間に緩やかな競争が発生している場合，競争の結果が相互関係に影響を与える可能性は低い。

３Ｃ：弱い相互関係にある人々の間に激しい競争が発生している場合は，相互関係は競争の帰結に影響をほとんど与えない。

３Ｄ：弱い相互関係にある人々の間に緩やかな競争が発生している場合は，相互関係は競争の帰結に影響をほとんど与えない。

Ⅳ．様々な学問分野における問題設定の可能性の検討

競争概念は，生態学，消費者行動学，教育学，経済学，哲学，政治学，スポーツ，貿易，ゲーム理論，オペレーションズ・リサーチなど多様な学問領域にて研究テーマの設定が可能となる概念である。

以下ではその研究テーマのもとになる問題意識の一部を示す。ちなみに，政治学，経済学，経営学，教育学，スポーツの分野においては競争の「公正さ」には多大な関心が持たれていることを最初に述べておく。

政治学

政治学において国家間の競争は極めて重要な問題である。世界において競争優位に立つことができるか否かに国家の存亡がかかっているといっても良い。この分野においては競争は戦争と密接な関係を持っている。しかしながら，核兵器が開発され実戦配備された後では，武力が強大であることは競争に勝つことを必ずしも保証するものではなくなっている。一方，急速な情報技術の進展により，核兵器ではなく国家の情報ネットワーク同士の競争，ひいては巨大グローバル企業の情報ネットワーク同士の戦争状態といった状況も出現しつつある。

経済学

Adam Smith（1776）は分業の価値を高く評価した。それと同時に政府に介入されない市場における自由な競争状態を維持することの重要性を強調した。Smith 以後，この（市場）競争原理の思想は様々な分野に拡がっていく。ここで，分業が進むと競争状態はどのように変化するのか。この点に問題を設定して研究を行うことは有意義であると考える。

経営学

競争が起きるとき各人は或る共通のもの（資源）を求めている。この競争が激しくなるにつれて参加者はある種の視野狭窄に陥っていく。ブルー・オーシャン戦略とはこの視野狭窄の状態から抜け出し，競争不在の未開拓市場を切り開く戦略のことである。例としては，携帯電話からインターネットを使えるようにした i モード，従来からのサーカスにオペラやロックの要素を取り入れたシルク・ドゥ・ソレイユがある（Kim, W. Chan & Mauborgne, Renée 2015）。

グローバル化に伴い価値連鎖（value chain）が世界に展開するようになっている。価値連鎖の流れの中で繋がっている企業間の関係を競争関係としてのみ捉えるのは不適切であるかもしれないが，価値連鎖の中にある企業間の競争関係を協力関係も含めて研究することは有意義なことであると考える。

教育学

子供を物理的に一つの場所に集め教育を行うシステムにとって競争は重要な役割を持つとみなされてきた。子供たちが良い成績を取ろうと競争をすれば，その結果として教育効果が向上する。この分野での競争関係の研究は将来世代の福利厚生の観点からも極めて重要であると考える。

特に成績評価の方法を絶対評価にするか相対評価にするかは非常に大切な研究課題である。クラスの子供の成績評価に相対評価を用いれば，子供たちの注意は他者へと向けられ対人的な性格の強い競争が発生するであろう。一方，絶対評価を用いれば，子供たちは他者の点数と自分の評価が無関係であることを理解する。そして，学習内容へと子供たちの注意は向けられ，発生する競争は対物的な性格の強いものになるであろう。

スポーツ

スポーツでは直接接触しての競争，直接接触はないが人と人が対峙しての競争，物理的なパフォーマンスの達成量の競争の３種類に分けられる。それぞれの具体例は次の通りである。

直接接触しての競争	ボクシング，レスリング，アメリカンフットボール，格闘技など
直接接触はないが人と人が対峙しての競争	テニス，バレーボールなど
物理的達成量の競争	アーチェリー，走り幅跳び，砲丸投げ，槍投げ，走り高跳び，スキー滑走競技など

図表４　スポーツにおける競争の３分類　（出典　著者作成）

上記３種類の分類で競争の性質にどの様な相違が見られるかを分析することは興味深いと考える。

Ⅴ．競争関係の定量化可能性の検討

競争関係を用いて設定した問題について研究をする場合，もしも競争関係を定量化することに成功すれば，それは意義の大きい達成であると言える。しかしながら，定量化された指標は，あくまで競争という関係全体のある側面を切り取って他の部分は捨象したものにすぎないということを意識して研究を進める必要がある。

競争の激しさを定量化することは生態学の分野では比較的容易である。人文地理学の分野では人口密度は大雑把な競争の激しさの尺度になり得る。しかしながら，性格の異なる競争同士を定量化して比較することは多くの場合，意味がないことに注意する必要がある。

Ⅵ．おわりに

本稿では競争を分類することを試みた。次にマズローの提唱した５段階欲求と競争の間の関係を考察した。さらに，競争概念の関わる多岐にわたる領域において意義のある研究テーマの一部を概観した。最後に，競争関係の定量化可能性の検討を行なった。

今後は，競争をネットワーク理論により理論化することを検討している。

注

（１）『国富論』での他の重要な語の出現回数は cooperation（co-operation）２回，war 64回，strategy 0 回である。また，経済学では competition は競争原理と訳されることもある。

（２）「競争」で終わる言葉 ―goo 辞書英和和英
https://dictionary.goo.ne.jp/srch/jn/競争/m0p2u/　2022年２月４日閲覧

（３）contest　competition についての訳語は未だ存在しない。よって，この概念の定義されている原文をここに引用しておく“If , on the other hand, competing individuals interact directly with one another and use the outcome of such interactions to determine access to resources, then contest competition is taking place. In contest competition, to the victor belongs the spoils. ”p. 340

（４）scramble competition についての訳語は未だ存在しない。よって，この概念の定義されている原文をここに引用しておく“scrambles occur when each participant attempts to accumulate and utilize as much of the critical resource as it can, without any regard to any particular social interaction with its competitors. ”p. 340

参考文献・引用文献

Barash, David P.（1982）, *Sociobiology and Behavior,* Elsevier Science Ltd

Blaug, Mark (2001) “Is Competition Such a Good Thing? Static Efficiency versus Dynamic Efficiency”（https://dx.doi.org/10. 1023/a：1011160622792）. Review of Industrial Organization. 19（１）：37–48

Kim, W. Chan & Mauborgne, Renée (2015), *Blue Ocean Strategy, Expanded Edition: How to Create Uncontested Market Space and Make the Competition Irrelevant : How to Create Uncontested Market Space and Make the Competition Irrelevant,* Harvard Business School Press

Smith, Adam（1776）, *An Inquiry into the Nature and Causes of the Wealth of Nations*